

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を進めます

～地域とともに歩む次世代の学校づくり～

コミュニティ・スクール＝学校運営協議会を設置した学校

地域学校協働本部＝学校運営協議会で議論したことを実働するネットワーク

なぜ、今「コミュニティ・スクール」なのか？

現代の学校が抱える課題は複雑化しています。学校・家庭・地域がバラバラではなく「社会総がかり」で子どもたちの育ちを支えていくことが、今、求められています。

コミュニティ・スクール導入の状況（令和7年度調査）

全国（小中学校） 71.6% （前年比 6.3%増）

全国（全校種） 64.9% （前年比 6.2%増）

* 国の方針により、全ての公立学校への設置が「努力義務」となっています。

* 全国の公立小中学校では、約7割がコミュニティ・スクールを導入しています。

豊明市の設置状況と計画（令和7年度現在）

小学校 8校中6校が設置済 →令和8年度に全校完了予定

中学校 令和8年度～9年度にかけて全3校で設置を準備中

学校と地域の新しいカタチ 3つのポイント

① 「意見を聞く」から「運営を承認する」へ

校長が作成する学校運営の基本方針を地域住民で構成される学校運営協議会委員が承認します。地域が学校の「当事者」になります。

② 「熟議」が未来を創る

「子どもたちのために、学校と地域が連携してできることは何か？」を対話で深めます。

活動の例：学習支援、図書ボランティア、登下校の見守り、環境整備など

③ 「WinWin (HappyHappy)」の関係性

学校がサポートを受けるだけでなく、地域の方々にも「生きがい」や「世代間交流」の場となり、地域全体の活性化（Happy）につながります。



学校運営協議会と地域学校協働本部のイメージ

コミュニティ・スクールと地域学校協働本部を「電動自転車」に例えると・・・

車輪（前後）：学校運営協議会 & 地域学校協働本部

ハンドルを握る人：校長（学校の責任者）

ペダルをこぐ人：地域コーディネーター（つなぎ役）

バッテリー：教育委員会

乗っている人：子どもたち

☆みんなでビジョンを共有し、同じ方向に進むことが大切！

詳しいことはこちらから（外部リンク）

- ・豊明市教育委員会 公式HP

<https://www.city.toyoake.lg.jp/1638.htm>

- ・愛知県教育委員会あいちの学び推進課「地域と学校の連携・協働ハンドブック」

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/aichi-manabi/chiikigakou-handobook.html>

- ・愛知県教育委員会あいちの学び推進課「あいちの社会教育 広報動画」

<https://www.youtube.com/watch?v=fdZy4lZvPOA>